

東日本大震災復興支援 DDA 支援活動「いつもきれいでありたい・私」プロジェクト

DDA 災害支援委員会
担当理事 伊藤隆治

3月11日東日本大震災、この傷跡は大きく未だ復興の目処が立たない状況が続いている中、企業・団体・学校関係や個人、有志などが各地各所で様々な支援活動を行っています。経済産業省所管のデザイン8団体でも各々の専門領域を活かした支援活動を行っており、DDAでもスペース、空間に視点を向けた支援活動を行う事としました。

そして、9月3日(土)、DDAでは宮城県東松島市において第1回目の支援活動を行いました。

5月、官浪辰夫新会長の元、新体制が発足。新たな活動委員会として「災害支援委員会」が設立されました。自身がデザイン顧問を務める福島県いわき市の水族館が地震・津波の被害を受け、一時休館を余儀なくされ、その間毎週2日間ずつ、ガレキの撤去や土砂かき出し等の支援活動に通っていました。この活動実績をきっかけに、今回DDA災害支援委員長を仰せつける事となりました。現地では被災者と共に活動をしていた為、少なからず、現場では何が必要とされているか?現場はどのような状況なのか?被災者目線で理解する事ができていました。被災地圏外(首都圏)では復興支援会議が各地で行われており、いくつかの会議に参加する機会がありましたが、どれも現地視察をしていないメンバー構成による会議が多く、被災者目線とは程遠く感じていました。

その事もあり、DDAでの活動は被災者目線で活動する事を心がけるようにいたしました。熊谷理事を中心にDDA東北支部の会員が宮城県を中心に数カ所の避難所を訪問し、被災者より直接の意見収集を行った。リサーチの結果、最も共通して多

かった意見が女性の「お化粧をしたい」であった。地震直後の大津波警報により、着の身着のまま逃げ、住宅は流され何一つ残っていない、もちろん化粧道具も残っていない。避難後は、今を生きて行く事で精一杯、この先どう生きて行くか等、現実を追われていたとの事。時間が経ち、ほんの少しだけ気持ちに余裕が見えて来た時に化粧に意識を向ける事が出来たとの事。やはり女性はいつも美しくありたいという気持ちを忘れずに持っている事に感動したと熊谷理事。

リサーチの結果、DDAらしい支援活動として、女性の美を応援するプロジェクト「いつもきれいでありたい・私」をテーマにお化粧をするスペース(空間)を提供する支援活動として行う事とした。避難所の一角に、誰もがいつでも気兼ねなく利用できる化粧スペースとして鏡台の並ぶ「パウダールーム」。コンパクトで収納可能な折りたたみ式、連結可能で軽量な段ボール製の鏡台を山田祐照理事にデザイン・設計を依頼。段ボール資材は長島梱包(株)よりご協力いただきました。また、化粧品を山本尚美理事に協力を頂き、(株)資生堂にご協賛いただき、化粧水と日焼け止めのセットを含め、パッケージングする事が出来た。

現地の状況変化は早く、8月に入り避難所から仮設住宅へと徐々に移行し始めていた。今回納入先として東北支部で選んだ場所は宮城県東松島市野蒜(のびる)地区と小野地区が避難する仮設住宅団地「ひびぎ工業団地」避難所とした。鏡台の製作、化粧品関係の手配、現地の状況、DDA関係者のスケジュールなど調整に時間が掛かり、8月納入予定が9月となった。



現地避難所

「いつもきれいでありたい・私」 POWDER ROOM SUPPORT KIT



試作

現地の状況変化は早く、8月に入り避難所から仮設住宅へと徐々に移行し始めていた。今回納入先として東北支部で選んだ場所は宮城県東松島市野蒜（のびる）地区と小野地区が避難する仮設住宅団地「ひびき工業団地」避難所とした。鏡台の製作、化粧品関係の手配、現地の状況、DDA 関係者のスケジュールなど調整に時間が掛かり、8月納入予定が9月となった。

9月3日（土）避難所納入日、東京からマイカーに鏡台20セットと化粧品を積み込んで東北自動車道を北上。片道6時間。関東支部からは私、東北支部からは小林征西会員、相沢秀俊会員、千葉義人会員、酒井亨会員の5名で直接避難所へ訪れ納品を行った。

現地では漁協に務める鈴木せつ子さんが窓口となり、避難所仮設住宅の集会場をパウダールーム設置スペースを確保していただいた。当日は納入を心待ちにしていた20名以上の女性の方々が来られ、パウダールームの利用説明を行った。早速、鏡の前に座り、笑顔と喜びに集会所が盛り上がり、「お化粧の事などすっかり忘れていたわ」「本当にうれしい」など DDA としてもとても嬉しい言葉をいただきホッとした。

体育館の避難所では救援物資の飲料・食料、衣料等の受け取り対応で混乱していた為、パウダールームを設置されても有効利用が難しかっただろう、8月は仮設住宅への引っ越しやお盆で落ち着かなかった事など、結果的に9月の納入タイミングがちょうど良かったとの事でした。

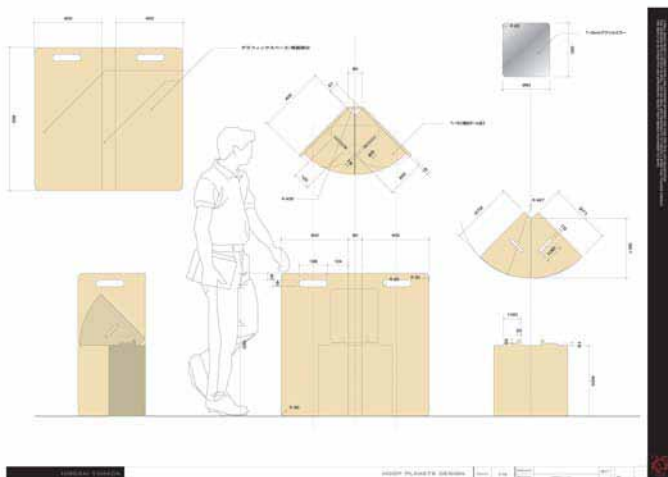
今回、窓口をしていただいた鈴木せつ子さんには仮設住宅に招いていただき、食事までご馳走になってしまいましたが、現地ではお客さんが来ていただける事が何よりも嬉しく楽しいとの事でした。

この出会いを無駄にせず、DDA として、この先も支援活動を継続していく事を約束してきました。

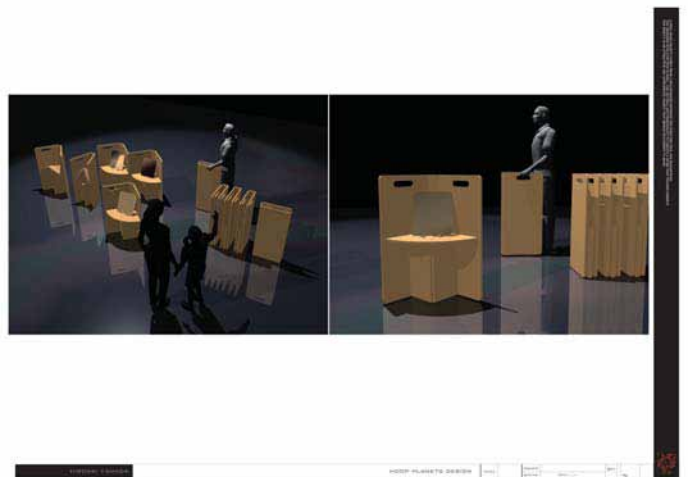


※この活動は、現地新聞、河北新報社の取材を受け、9月7日の新聞に掲載されました。

災害支援委員会：伊藤隆治理事（委員長）、熊谷弘夫理事（東北支部）、山田祐照理事、山本尚美理事、
 設置日：2011年9月3日（土）13時～15時
 設置場所：宮城県東松島市野蒜小野地区避難所 仮設住宅 ひびき工業団地内
 設置者：DDA 東北支部 / 小林征西会員、相沢英俊会員、千葉義人会員、酒井亨会員、DDA 関東支部 / 伊藤隆治



図面



CG